



# 瀬田の丘

創刊 1973 年

編集・発行／カトリック瀬田教会信徒会広報部  
東京都世田谷区瀬田 4-16-1



今日のみことば

年間第 12 主日 B 年 (2024 年 6 月 23 日)

瀬田教会主任司祭 小西広志神父

第一朗読：ヨブ記 38 章 1、8－11 節

第二朗読：コリントの信徒への手紙二 5 章 14－17 節

福音朗読：マルコによる福音書 4 章 35－41 節

## 神への信頼

『マルコによる福音書』第 4 章には、イエスさまが語ったさまざまなたとえが集められています。種蒔く人のたとえ(1－9 節)、たとえを話す理由(10－12 節)、種蒔く人のたとえの説明(13－25 節)、種の成長のたとえ(26－29 節)、からし種のたとえ(30－32 節)と続いて、最後に、神の国の秘密が弟子だけに与えられていることが示されます(33－34 節)。

今日の朗読箇所は、その後にイエスさまと弟子たちが群衆から離れる場面での出来事です。そして、今日の朗読の箇所から、8 章 26 節まで、一連の奇跡物語が描かれます。その後でペトロが「あなたはメシアです」と信仰告白をします(8 章 29 節)。ですから、今日の朗読箇所から始まる奇跡物語は、ペトロの信仰告白を導き出すものです。

少しいねいに、福音朗読を見ていきましょう。

35－36 節：

「向こう岸に渡ろう」というイエスさまのことばに従い、弟子たちは漕ぎ出します。イエスさまの言葉に信頼してこの世を行く教会を表しているのかもしれませんが。

## 37 節:

この湖（ガリラヤ湖）特有の突風が、舟の行く手をふさぎます。37 – 39 節を直訳して、構造を見てみましょう。

a 風の大きな疾風が起こった。

波が舟に襲いかかり、舟は水浸しになった。

b イエスはともで、枕をして眠り続けていた。

c 弟子たちは彼を起こして、言った、

「先生、われわれが死んでも、あなたは気にならないのですか」。

b' イエスは起きて、海を叱り、海に言った。「黙れ、騒ぐのをやめろ」。

a' 風は凧ぎ、大きな静けさが起こった。

風に囲まれて（a、a'）、イエスさまの行動と言葉があります（b、b'）。そして、中心に弟子たちの様子が描かれています（c）。

## 38 節:

前節の、突風、波をかぶる、水浸しと騒がしい描写とは対照的に、イエスさまの眠るという静かな様子が示されます。弟子たちは、イエスさまに助けを願います。イエスさまの静かな様子とは対照的に、弟子たちの心は騒ぎ立っています。「わたしたちがおぼれてもかまわないのですか」の「わたしたち」にはイエスさまも含まれるのでしょうか？ だとしたら、弟子たちのイエスさまへの理解の浅さがあるように思います。

## 39 節: 叱る

叱る（エピティマーン）は、人間を脅かす力に対する神の叱咤を表します（詩 106 番 9 節参照）。海に境界を設け（創 1 章 2 節、9 – 10 節）、荒れ狂う水を治める（詩 107 番 29 – 30 節）神と同じように、イエスさまは自分自身のことばで嵐を鎮めるのです。

## 40 節: 怖がる、恐れる

この言葉は新約聖書の中で三回だけ用例があり、いずれも不信仰を表すそうです。弟子たちの狼狽、騒がしさは、神に信頼できない、神に委ねきれない臆病さから来るのであり、対照的にイエスさまの静かな態度は、神に信頼する信仰に根ざしているのです。

## 41 節:

奇跡は、イエスさまがどなたであるかという問いかけを弟子たちの心に起こします。